

ようごんじ 用言寺遺跡

(上越市今泉字用言寺586ほか)

用言寺遺跡は、高田平野南西部を流れる矢代川沿いの河岸段丘上に立地します。北陸新幹線の建設に伴い昨年度から発掘調査に着手し、今年度はその南側に隣接する範囲を4月から調査しています。

17年度の調査では、中世の掘立柱建物・溝・井戸などの遺構が見つかりました。また、12世紀中頃の井戸からは白磁の碗・皿6個体などがまとまって出土し、土器・陶磁器の編年研究において重要な資料になるものと期待されます。なお、当時の高級食器である白磁がまとまって出土したことは、埋め戻しの際に祭祀が行われたことを意味するようです。

今年度の調査においても、中世の井戸が見つかり、青磁の碗・盤、木製杓子・箸、曲物、漆器皿が出土しています。また、井戸の埋まり方を観察したところ、地山を掘り返した土で一気に埋め戻されていることがわかりました。新しい井戸を掘るときに出た土で、古い井戸が埋め戻されたようです。昨年度とあわせて21基発見された井戸は、同時に使用されたのではなく、掘り直しが繰り返された結果を反映しています。

(小川真一)



鎌倉時代の井戸

ぶざえもんうら 武左衛門裏遺跡

(新潟市白水3丁目34番地 ほか)

武左衛門裏遺跡は古墳時代の遺物が出土する遺跡として、昭和30年代から知られていました。遺跡は砂丘の南斜面からやや標高の低い部分にかけて南北約100mの範囲に広がっています。現況は標高の高い場所は果樹園、低い場所は水田となっています。今年度、国道49号亀田バイパス拡幅工事に先立ち発掘調査を行ったのは、遺跡南端部分にあたる標高の低い水田部分です。

調査の結果、縄文時代から近世までの遺物が出土し、遺構は土坑・溝・不整形な窪地が検出されました。遺物は時期によって出土層位が異なるということではなく、同じ層から様々な時代のものが混じって出土するので、ある一時期の人々が残した遺物ではないと考えられます。おそらく、近世以降に標高の高い場所から流れ込んだか、あるいは客土した土の中に、複数時期の遺物が紛れ込んでいたのでしょう。検出された遺構の構築時期の特定は難しいですが、不整形な窪地はほかの遺跡で水田跡と考えられている遺構の形態に似ているので、もしかすると水田跡がもしかかもしれません。(土橋由理子)



近景(東から)